



青協建設株式会社 (2012年入社)

現場管理

酒向 銀次郎 さん



INTERVIEW

建設業だから味わえる達成感を 多くの人に知ってほしい

高校で土木を学び、それを生かすために建設会社に就職しました。若手ですが先輩もできて、今まで教わってきたことを教えていく立場になりました。先輩からの質問にも答えられるようになり、一人で現場を進行できるようになりました。失敗を繰り返したときは、仕事を辞めてしまいたいと思ったこともありましたが、続けてこられたのは、これまで身につけたことを無駄にしたくなかったことと、将来の自分のためにもよくないと思ったからです。また土木の仕事に思い入れが

あり、離れてしまいたくないという思いもあります。技術者は専門知識が不可欠の職種なので、やはり知識は大切にしたいですね。若い人がついてきてくれる、頼られる仕事人を目指したいです。納期を守れば、自分のペースで仕事ができる業界です。建設業でしか得られない喜びもあります。仕事の達成感を知るまでに時間がかかるかもしれませんが、多くの人に挑戦してほしいです。



02

TSUCHIYA株式会社(2007年入社)

現場監督

沼波 貴恵さん



INTERVIEW

「これが私の仕事です!」と 誇れる仕事がしたくて建設業に

父親が建設業に就いて、「これはお父さんが建てたんだ」と聞いたとき、かっこいいと思いました。そこから建設業に憧れ、工業高校に進み、大学では建築を学びました。昔から建設業は男性の仕事というイメージを持っていました。たしかに男性にしかできないこと、男性の力を借りた方がスムーズなことはたくさんあります。しかし実際に働いてみると、女性でも居心地が悪いということはないし、「女性だからダメ!」といった制限もありません。私たち女性も、「どうしたら

うまくできるだろうか…」と挑戦しながら、自分にできることを模索しています。見た目の雰囲気よりも、職人さんたちは話しやすく相談もしやすいので、いろいろな話をしていますよ。仕事なので辛いこともあります。楽しいことはもっとたくさんあります。これから建設業を目指す女性には、「何事も挑戦!」だと思って、建設業の世界でいろいろなチャレンジをしてほしいです。



日産工業株式会社
代表取締役社長
島 秀太郎さん



INTERVIEW

つくり手も笑顔になれる 魅力ある建設業をこれからの世代に

建設業は、長い年月、人々に利用されるものをつくる仕事です。地域に暮らす人の生活を支え、生活を変え、生命や財産までも守る仕事です。自分たちが携わった仕事みなさんに喜んでいただけるという自負をもって、若手には誇りを感じながら仕事をしてほしいですね。私も建設業に入った30年ほど前、最初に現場監督をした高速道路の仕事は忘れられません。完成から数年して、自分の自動車で走ったときは感動しました。いま、機械化が進みさまざまな人が能力を発揮で

きる仕事へと変わっています。若い人材が苦しみながらも、一生懸命仕事を覚えようと工夫、努力する姿を見ていると頼もしく感じます。若いときから、大きな現場で活躍できる建設業。一日一日、責任感と達成感をもって仕事にあたってください。また、これから建設業を目指すみなさん、地図に残るやりがいがある仕事です。完成までの過程では地域の方とのコミュニケーションなど、さまざまな思い出が増えていきます。ぜひ一緒に働きましょう。